

2023年12月8日

各 位

会社名 インスペック株式会社
 代表者名 代表取締役社長 菅原 雅史
 (コード番号：6656 東証スタンダード)
 問合せ先 執行役員管理部長 佐藤 保
 TEL 0187-54-1888 (代表)

業績予想の修正並びに剰余金の配当予想（期末配当）に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2023年6月9日に公表しました2024年4月期（2023年5月1日～2024年4月30日）通期業績予想並びに配当予想を下記の通り修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想値の修正

2024年4月期（2023年5月1日～2024年4月30日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	2,300	70	40	30	7.53
今回発表予想（B）	1,730	△200	△200	△210	△52.45
増減額（B－A）	△570	△270	△240	△240	－
増減率（％）	△24.8	－	－	－	－
(ご参考) 前期実績	2,290	106	81	78	19.68

2. 業績予想の修正理由

当社は、2023年5月に発表した「確かな技術とあくなき挑戦で、創造社会を切り拓く」というパーパスを新たに策定し、全社一丸となって事業活動に取り組んでおります。今期は受注残高12億円をもって売上計画23億円の達成に向けてスタートを切りましたが、いくつかの大型案件が翌期にずれ込む見込みとなりました。

当社が属する半導体パッケージ基板業界におきましては、昨年より続いておりますスマートフォンやパソコン市場の落ち込みによる半導体の需要減少の影響により、2023年度は大変厳しい市場環境となっております。このような経営環境の中、当社の顧客におきましても設備投資計画を一旦見送る動きがみられ、期初に計画していた受注が翌期に延期になるなど、第2四半期累計期間の受注活動は厳しい結果となりました。

この結果、今年度の売上計画2,300百万円に対して売上見通しが1,730百万円と大幅な未

達となる見通しです。

以上の理由から、営業利益につきましては、売上の落ち込みにより売上総利益が減少し、販売費及び一般管理費のコスト削減に取り組んだものの、売上総利益の減少をカバーするには至らず、200百万円の営業損失となる見込みです。また、経常利益につきましては、200百万円の経常損失、当期純利益につきましては、210百万円の当期純損失となる見込みです。

3. 現在の取り組み状況及び今後の展開について

当社の主力事業である半導体パッケージ基板検査装置分野におきましては、当期の受注がずれ込んだものの、現在、過去最大規模の大型商談が進行中であり、来期早々の受注獲得を目指しております。また、新事業である露光装置分野におきましては、EV^{※1}向けの最新の両面露光用材料による評価が進んでおり、国内及び海外の大手 FPC^{※2}メーカーによる露光評価の実施や実機の確認等もこなし、今期中の初受注に向けて順調に進んでおります。本社生産工場は、受注残の生産により高稼働率が続いており、年明けから来期にかけてフル稼働が続く見通しとなっております。

上記の状況をもとに、当社は以下の施策に全力を挙げて取り組んでおります。

① 基板検査装置事業

- ・次世代及び次々世代の半導体パッケージ基板向けのウルトラファイン AOI^{※3}の開発
→ $L/S^{※4}=5\mu\text{m}/5\mu\text{m}$ から $L/S=2\mu\text{m}/2\mu\text{m}$ 、さらには $L/S=1\mu\text{m}/1\mu\text{m}$ を視野に入れた最先端検査システムの開発

② 露光装置事業

- ・高性能 EV に使用される両面 FPC 向け露光装置の量産化に向けた生産体制の構築及び国内外の販売並びにサポート体制を構築

③ 海外拠点強化

- ・半導体パッケージ基板分野で高成長が見込まれる台湾市場において、新しく拠点を移転し、これまでは国内市場向けであった最新の AOI をデモ機として常設して、販売及びサポート体制の増強

④ 海外販売展開

- ・今後、高成長が見込まれる東南アジア地域でのビジネスを加速させるため、代理店と連携し、主にタイ・ベトナムをターゲットとした営業活動の展開

⑤ 設備投資計画

- ・年明け以降の受注増加に対応していくため、来期中の本社工場の増築を計画

以上の施策を実行し、来期以降のV字回復及びその先の持続的成長を実現してまいります。

- ※1 : EV (電気自動車)
- ※2 : FPC (フレキシブルプリント基板)
- ※3 : AOI (基板外観検査装置)
- ※4 : L/S (ラインアンドスペース)

4. 配当予想の修正

	年間配当		
	第2四半期末 (実績)	期末	合計
前回発表予想	0円00銭	3円00銭	3円00銭
今回修正予想	0円00銭	未定	未定
前期実績 (2023年4月期)	0円00銭	3円00銭	3円00銭

5. 配当予想の修正理由

当社は、株主の皆様に対する長期的かつ総合的な利益の拡大を重要な経営目標と位置づけて、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針として取り組んでおります。上記業績予想の修正により、当期の配当予想を「3円」から「未定」へ修正させていただきます。

(注) 本資料に記載している業績予想等に関する将来に関する記述には、発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上